

春岡村の伝説

キツネの伝説（つづき） ～稲荷台（イナリ台・トウカン台）～

大正12年の1月、八木橋須蔵さんと三角平吉さんがトウカン台の山林へ朝早く出かけて猟をしていました。ところがいつの間にか頭がボーっとしてきたので、煙草を一、二服吸ってまた猟を再開したところ、かなり年とった狐がいたので捕まえました。
（『思い出の春岡』 銭場佐一郎より）

話に出てくるトウカン台は、小百合幼稚園の近くの見沼代用水にかかる稲荷台橋（いなりだいはし）と、稲荷台公園（いなりだいこうえん）として名前が残っています。「稲」の音読み「トウ」、「荷」の音読み「カ」で「稲荷→トウカ」と読みます。

稲荷台橋の道を岩槻の方へ行くと、綾瀬川にかかる風間橋に通じます。この橋を渡って右折し、122号線をくぐると、岩槻の西原中学校の裏にある新留稲荷に行きつきます。また稲荷台橋の坂をのぼりきると、もちづき歯科とウエルシアがあり、そこを左に曲がると春里中学校の五差路と、七里の踏切に通じます。この道はかつて深作村の人が岩槻に買い物に行くときに使う主要な道で、この道でキツネに化かされる人の話がいくつも『思い出の春岡』の中に出てきます。買い物帰りに一杯ひっかけていい気持ちになった旦那さんが、キツネに化かされてしまったのでしょうか。地元のおじさん（昭和15年生まれ）のはなしでは、七里駅から見沼代用水、深作の氷川神社あたりは、雑木やクロマツで暗く鬱蒼としていて、その中に農家が点々とあるくらいでした。一方、土地の低いアーバンみらいの周辺は田んぼが広がり、森と田んぼの対比が美しく、学校の授業でよく写生に来たそうです。（東三番街 平山由喜）



稲荷台橋